



2010年5月17日

各 位

会 社 名 アステラス製薬株式会社  
代 表 者 代表取締役社長 野木森 雅郁  
コード番号 4503  
(URL <http://www.astellas.com/jp>)  
東 証 ・ 大 証 ( 各 第 一 部 )  
決 算 期 3月  
問 合 せ 先 広報部長 河村 真  
Tel : (03) 3244-3201

### アステラス製薬 OSI Pharmaceuticals 社買収に関する 説明会資料について

アステラス製薬株式会社は、このたび、米国の医薬品会社 OSI Pharmaceuticals 社との間で、当社が OSI Pharmaceuticals 社を買収することで合意し、5月17日付け（現地時間5月16日）で最終契約を締結いたしました。本件については、同日、プレスリリースにてお知らせしています。

添付資料は、本日10時30分より予定しています記者会見用の説明資料です。同契約の目的や内容、OSI Pharmaceuticals 社の概要等についてまとめています。

以 上

## OSI Pharmaceuticals, Inc.の買収合意

—がん領域におけるグローバル・カテゴリー・リーダーを目指して—

2010年5月17日



### 目次

- I. 買収の概要
- II. 買収の戦略的意義
- III. OSI Pharmaceuticals社の概要
- IV. 損益への影響



## I. 買収の概要



3

### 買収の概要

- 買収価格： 1株あたり57.50ドル（現金）  
（公開買付け発表前の2010年2月26日終値に対して55%のプレミアム）
- 買収金額の総額： 約40億ドル（完全希薄化後ベース）
- 公開買付期間： Schedule TOの訂正の提出（5月21日までに行われる見込み）から10営業日以内の日まで（延長のない限り）
- 買収資金の調達： 全額手元資金を充当
- アステラス及びOSI Pharmaceuticals社の両取締役会は全会一致で本買収を承認



4

## II. 本買収の戦略的意義



5

## アステラスが目指すビジネスモデル

### グローバル・カテゴリー・リーダー Global Category Leader (GCL)

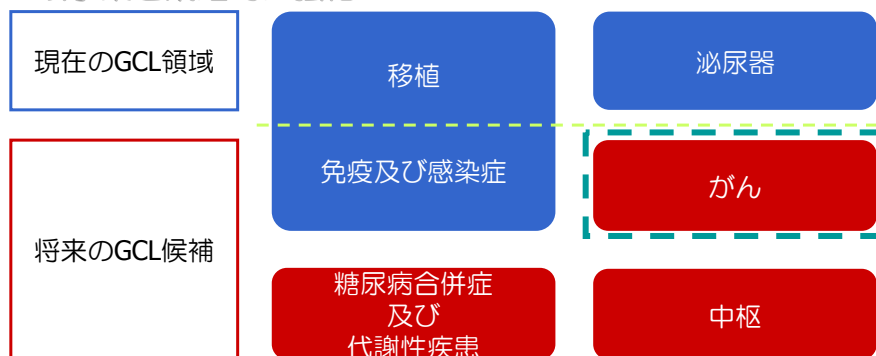
アンメットメディカルニーズが高く、高い専門性が必要とされる複数の領域「カテゴリー」で、「グローバル」に高付加価値の製品を提供することで、競争優位を構築し、カテゴリーでの「リーダー」としての存在を確立する。



6

## がん領域におけるGCLを目指す

- がん領域は、アステラスの5つの重点疾患領域のひとつ
- OSI Pharmaceuticals社の買収により、アステラスのがん領域事業を飛躍的に強化



7

## 買収の戦略的意義

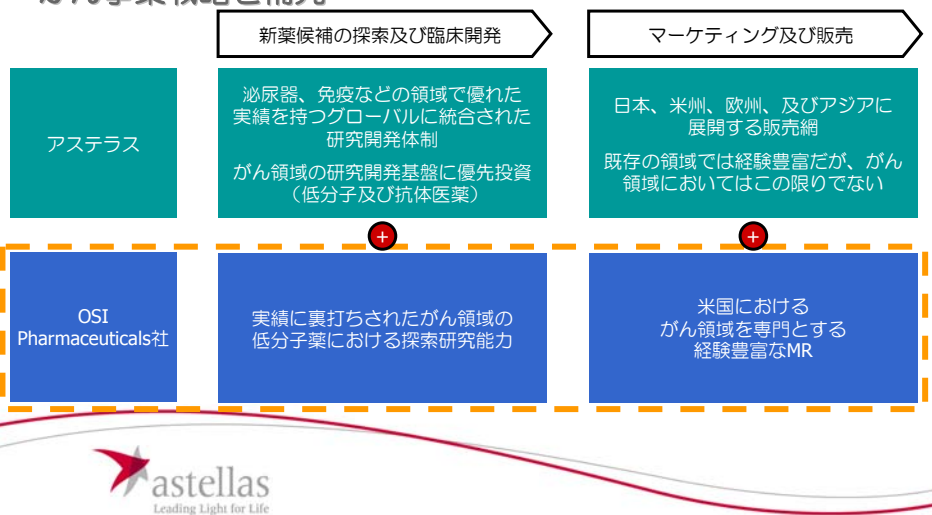
- アステラスのがん事業基盤の早期立ち上げ
  - ✓ 米国でのがん領域における創薬から開発、商業化までの総合的な事業基盤の獲得
  - ✓ 臨床開発段階のがん領域パイプラインの拡大
  - ✓ がん領域における低分子化合物探索プラットフォームへのアクセス
- 確立された収益源と収益性の改善
  - ✓ 高い成長性を持つブロックバスター及び後期開発品の存在
  - ✓ Roche社/Genentech社との良好な提携関係
  - ✓ 増加しつつあるDPP-IV阻害薬によるロイヤリティ収入



8

## がん領域における総合的な事業基盤

- OSI Pharmaceuticals社の総合的な事業基盤はアステラスのがん事業戦略を補完



9

## 臨床開発段階にあるがん領域パイプラインの拡充

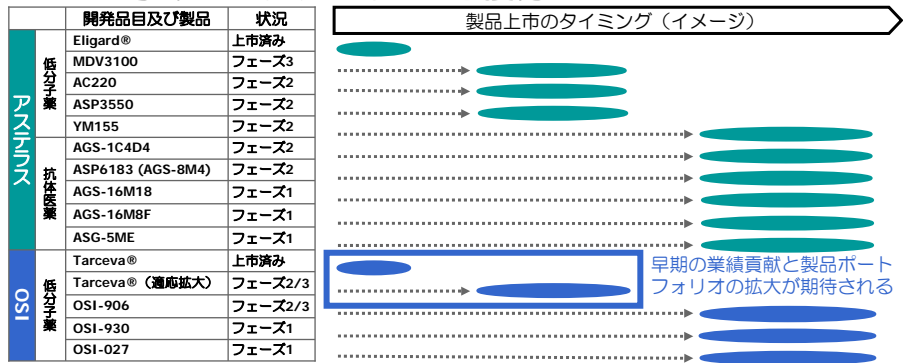
- アステラスのがん領域パイプラインを増強

	開発品目	対象疾患	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
ANIMIN 低分子薬 抗体医薬	MDV3100	前立腺がん	(米国/欧州)		
	AC220	急性骨髄性白血病	(米国/欧州)		
	ASP3550	前立腺がん	(日本)		
	YM155	乳がん、非ホジキンリンパ腫、メラノーマ	(米国/欧州/日本)		
	AGS-1C4D4	膵臓がん	(米国/欧州)		
	ASP6183 (AGS-8M4)	卵巣がん	(米国)		
	AGS-16M18	がん			
	AGS-16M8F	がん			
	ASG-5ME	がん			
	OSI 低分子薬	Tarceva® (適応拡大)	非小細胞肺癌 (アジュバント療法) 卵巣がん、大腸がん その他	(米国)	
OSI-906		副腎皮質がん 卵巣がん	(米国)		
OSI-930		小細胞肺癌、膠芽腫、大腸がん、腎がん、頭頸部がん、非小細胞肺癌、胃がん	(米国)		
OSI-027		進行性固形がん、リンパ腫	(米国)		

10

## アステラスは確立された総合的ながん事業プラットフォームを獲得

- OSI Pharmaceuticals社の買収により、アステラスは早期の業績貢献と製品ポートフォリオの拡大が期待される確立されたがん事業プラットフォームを獲得



## III. OSI Pharmaceuticals社の概要

## OSI Pharmaceuticals社の概要

- 1983年に米国にて設立、NASDAQ市場に上場
- 米国ニューヨーク州メルビルに本拠を置き、米国ニューヨーク州、コロラド州、ニュージャージー州及び英国に拠点を持つ（米国内の拠点は2010年末までに米国ニューヨーク州アズレイに統合予定）
- がん及び糖尿病、肥満の領域において、革新的な分子標的薬の創製から開発、商業化まで一貫した総合的な事業基盤を持つユニークかつ収益性の高い医薬品会社
  - ✓ 総合的ながん事業プラットフォーム
  - ✓ 上市済み主要製品：Tarceva® (*erlotinib*, HER1/EGFR阻害剤)
    - Roche社/Genentech社との提携
  - ✓ がん及び糖尿病、肥満の領域における有望な開発パイプラインを有する
  - ✓ 好調な業績と高い成長性
- フルタイム従業員数: 512名（2009年12月31日時点）



13

## 米国における確立されたがん事業プラットフォーム

- 残存特許期間を依然長く有するブロックバスター（Tarceva®）を柱とする高収益かつ成長性のあるがん事業
- 経験豊富で有能なMRチーム
- 実績に裏打ちされた、クオリティの高い確立された創薬インフラ及びノウハウ

新薬候補の探索及び臨床開発

実績に裏打ちされたがん領域の  
低分子薬における探索研究能力

マーケティング及び販売

米国における  
がん領域を専門とする  
経験豊富なMR



14



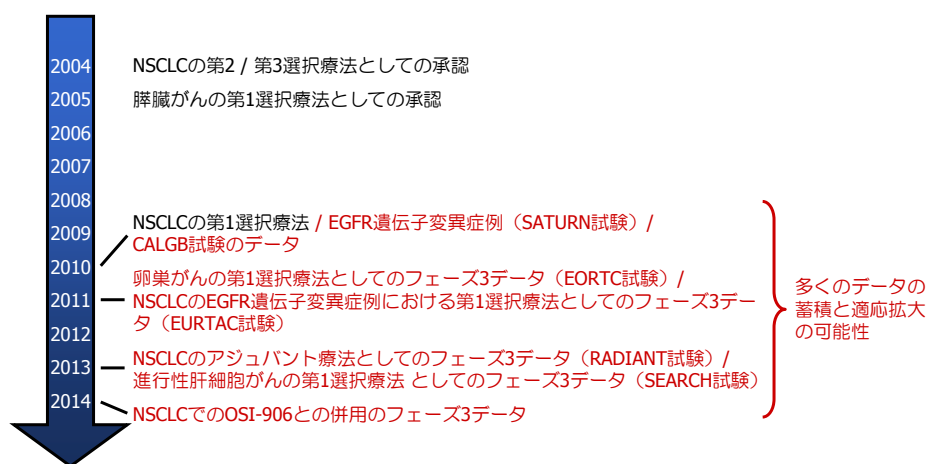
## Tarceva® – ブロックバスター抗がん剤

- 米国において、最も多くの治療患者数を誇る最も成功した抗がん剤のひとつ
  - ✓ 2009年には全世界で12億ドルの売上高を達成
  - ✓ 109ヶ国で販売承認がされている進行性非小細胞肺癌（NSCLC）の治療薬
  - ✓ 戦略的に貴重な、長期の特許期間中に生み出すキャッシュフロー
- ライフサイクルマネジメント
  - ✓ ライフサイクルマネジメントにより、多くのデータの蓄積と適応拡大が期待される
  - ✓ 向こう15ヶ月間にNSCLCのEGFR遺伝子変異陽性症例及び卵巣がんへの適応拡大に向けた進捗が期待される
  - ✓ さらに、肝臓がんへの拡大や、複数の分子標的療法の併用試験の可能性



15

## Tarceva®のライフサイクルマネジメント



16

## 臨床開発パイプライン

開発品目	薬効・作用機序	対象疾患	状況
<b>がん</b>			
Tarceva® ( <i>erlotinib</i> ) (適応拡大)	HER1/EGFRチロシンキナーゼ阻害剤	非小細胞肺癌 (アジュバント療法) 卵巣がん、大腸がん その他	フェーズ3 フェーズ2
OSI-906	IGF-1R/IRチロシンキナーゼ阻害剤	副腎皮質がん 卵巣がん	フェーズ3 フェーズ2
OSI-930 (中国において Simcere Pharma社に 導出)	c-kit/VEGFR-2 チロシンキナーゼ阻害剤	小細胞肺癌、膠芽腫、大腸がん、腎がん、頭頸部がん、非小細胞肺癌、胃がん	フェーズ1
OSI-027	mTORキナーゼ阻害剤	進行性固形がん、リンパ腫	フェーズ1
<b>糖尿病・肥満</b>			
PSN821	GPR119作動薬	2型糖尿病 / 肥満	フェーズ2
PSN010 (Eli Lilly社に 導出)	グルコキナーゼ活性化剤	2型糖尿病	フェーズ2



17

## 創薬研究能力

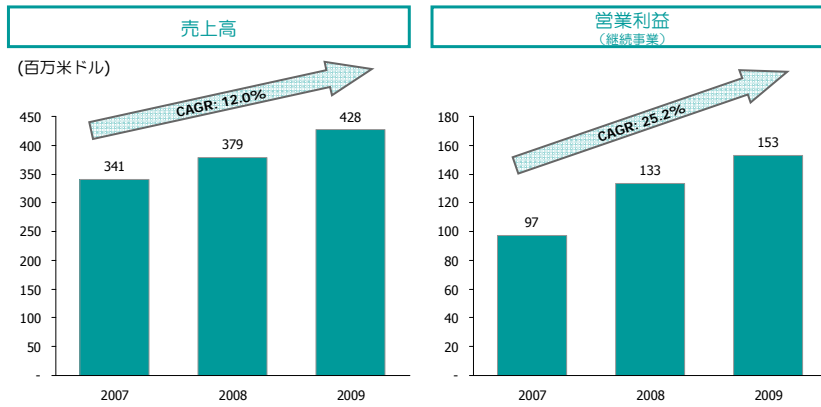
- 有効性が確認された新規候補化合物に注力
  - ✓ がん、糖尿病・肥満の両領域において、伝統的アッセイ及び新規アッセイを利用した複数の低分子新薬探索プログラムが進行中
  - ✓ 臨床的に検証済み、もしくは生物学的な疾患への関与を徹底的に解明して有効性が示唆されるキナーゼ経路を主に標的とする
  - ✓ 複数の経路のターゲティング及び新薬候補化合物の取捨選択に強み
  - ✓ 独自の新規細胞ベースアッセイ：EMT（上皮-間葉転移）
- がん領域については米国で、糖尿病、肥満領域については英国の子会社で創薬研究を行う



18

## 好調な業績と高い成長性

- 売上高、利益ともに成長



CAGR: 2007年から2009までの年平均複利成長率  
出所: OSI Pharmaceuticals社の決算資料



19

## IV. 損益への影響

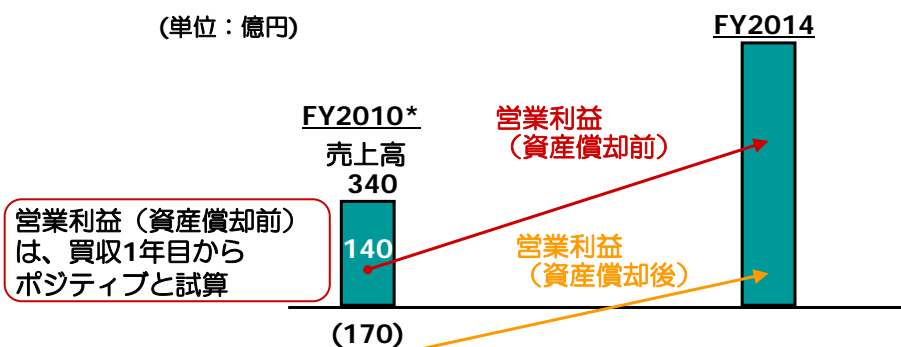


20

## 損益への影響

- 下記の当社業績への影響額は、現時点で得られている情報に基づく試算
- なお、当社業績への影響は確定後に公表予定

(単位：億円)



\* 2010年度は9ヶ月間の影響を想定



21

ご注意： この文書は、当社の間接子会社である公開買付者によるOSI Pharmaceuticals 社に対する公開買付けに関して一般に公表するためのプレゼンテーション資料であり、OSI Pharmaceuticals 社株式を保有している投資家に対する売付け等の申込みの勧誘又は買付け等の申込みを目的として作成されたものではありません。この文書には、将来的な見通しに関する記述が含まれております。この文書に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の結果は多くの要因の影響により大きく異なる可能性があります。